

## 第3回企画展

## 「高野長英旧宅資料展」

## ただいま 開催中

現在、高野長英記念館では令和7年度第3回企画展「高野長英旧宅資料展」を開催しております。(令和8年4月19日まで開催)教育委員会から移管されました高野長英旧宅資料135点と日高神社からの8点のうちの36点を展示公開しております。

高野長英旧宅は、高野長英の母美也の実家で、長英は9歳で父親を亡くし、美也の兄の高野玄斎の養子となり、長英が17歳で江戸に遊学するまでの一時期を過ごしたところです。当時は、平屋でしたが明治9年(1876年)に高野家12代長閑の時に二階部分が増築されました。長英が過ごした上座敷と次座敷が現存しており、昭和8年(1933年)高野家13代長運の尽力もあり、国指定史跡となりました。現在は、付属の新座敷・古稀庵(14代長経が父長運の古稀を祝い建築)・瑞臯文庫を含め、令和6年(2024年)国の指定有形文化財となっております。

高野家三代の果たした役割

本企画展では、高野長英が過ごした武家住宅の一部を残した高野家12代当主・長閑、贈正四位高野長英先生顕彰碑の建立、『高野長英傳』『高野長英全集』の刊行および国史跡指定に尽力した13代当主・長運、高野長英記念館ならびに古稀庵・新座敷建設に携わり顕彰活動に尽力した14代当主・長経の関係資料を中心に展示し、高野家三代の役割を紹介しています。



解説会の様子(2/14)

高野長運宛 はがき

昭和初期、『高野長英傳』『高野長英全集』の注文や、本が届いたお礼として、高野長運に送られた多数のはがき。その中には、各巻で題字、序文、跋文を執筆した方々のものもあります。



例えば、石黒忠恵(いしぐろ ただのり・陸軍軍医)、呉秀三(くれ しゅうぞう・精神科医)、中濱東一郎(なかはま とういちろう・医師・長運の恩師)、高橋是清(たかはし これきよ・第20代内閣総理大臣)、徳富蘇峰(とくとみ そほう・ジャーナリスト)、吉野作造(よしの さくぞう・政治学者)をはじめ、水沢出身の郷古潔(ごうこ きよし・三菱重工業社長)、長運と交流のあった市川左団次(いちかわ さだんじ)の名前も見られます。

桜の名所「水沢公園」にご来園の節は、ぜひお立ち寄りいただければと思います。ご来館をお待ちしております。